

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム  
研究者派遣元支援プログラム

成果報告書

提出日：平成 26 年 3 月 31 日

1. 採択者			
氏名	並河良典	採択年度	平成 25 年度
部局	大学院理学研究科	電話	
職名	教授	メール	
2. 渡航者			
氏名	尾高悠志	採択年度	平成 25 年度
部局	大学院理学研究科	電話	
職名	助教	メール	
研究課題名	K-安定性と代数幾何		
海外渡航期間	平成 25 年 4 月 8 日～ 平成 26 年 3 月 23 日		
3. 渡航に関する情報			
渡航先	国名：イギリス 大学等研究機関名：Imperial College, London 研究室名等：Department of Mathematics, Geometry group 受入研究者名：Simon Donaldson, Richard Thomas		
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先：①Bucharest (Romania) ②Simons center for geometry and physics Stony Brook university, ③Toronto (Canada) ④ 城崎代数幾何学シンポジウムと京都滞在のための一時帰国 目的：研究集会/セミナーへの参加/講演 期間：① 9月13日 ②9月30日～12月8日 (③と④を除く) ③10月14日～18日 及び 11月16日～21日 ④10月22日～11月3日		

## 4. ジョン万プログラムによる成果

以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。  
 ジョン万プログラム研究者派遣プログラムを通じて渡航された場合は、渡航者の提出する成果報告書の写しを添付することとし、この項目の記入は不要です。

それ以外の海外派遣事業等を通じて渡航した研究者にかかる派遣元支援の場合は、以下の項目を記入して下さい。

<p>国際共著論文の執筆          (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p>	<p>2013年度は特になし(2012年度に一本あり)。          しいて言えばRichard Thomas氏(Imperial college London)とのプレプリントを書いたが、証明に穴が見つかり、現在修正を試みているので未完成。</p>
<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ/実施          (国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>Imperial collegeおよびStony Brook universityでのSimon Donaldson, Richard ThomasならびにRadu Laza氏との共同研究及び議論を開始した。Fano多様体のモジュライに関する議論(Donaldson氏と共同), K安定な多様体のモジュライに関する議論(Thomas氏との共同), K3曲面のモジュライ及びGromov-Hausdorff極限に関する議論(Laza氏と)が進んだ。</p>

<p>国際研究ネットワーク の新規構築／深化</p> <p>(参加した学会や その他の学術・交流 組織、そこから構築／ 深化した研究ネットワ ークの内容等)</p>	<p>Imperial College London および Stony Brook 大学における Kahler 幾何学者・代数幾何学者とのネットワーク構築, 交流. トロント Fields institute におけるミラー対称性の学会参加によるミラー対称性の専門家とのネットワーク構築, 交流.</p>
<p>在外研究経験 による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た 研究の展開方法、研究 室の運営方法、教育方 針・人材育成方法等)</p>	<p>英語による, または国を挟んだ共同研究の方法. 議論の方法. 特に微分 (主に Kahler) 幾何側の研究者との交流の方法.</p>
<p>フィールド研究 の進展</p> <p>(渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p>	<p>数学の研究の為, 特になし</p>